

水辺の 生物



ハクセキレイ (白鶺鴒)

スズメ目セキレイ科

写真提供 堀内洋助氏

体 長約21cm、スズメ程度の大きさで尾羽の長い白と黒の鳥。顔は白く、翼も白い。喉の下から上胸部が黒く、腹面は白い。同じセキレイ科のセグロセキレイに似ているが、頭部全体に白色部が多く、前頭部から頬にまでつながっている。

ユーラシア大陸に広く分布し、日本では北海道、本州（主として中部以北）に繁殖する。海岸地方の防波堤や、河川、湖沼などの水辺を中心に、水田や人家近くにすみ、砂泥地の水辺や人工的なコンクリート護岸にも適応している。

昆虫食で水辺を歩いたり、走ったりしながら捕食する。ときには小回りがきく飛翔力でひらひらと舞い上がり、空中を飛ぶ虫を巧みに捕食する。繁殖期には大きな川の流心を左右に往復して飛び続けながら、多種のカゲロウ類やユスリカ、ガガンボ等を捕らえる。セグロセキレイよりフライングキャッチ法を多く使う。空中でのバランスをとるために尾羽が長いともいわれる。繁殖期は5～7月、一夫一婦で繁殖する。巣は鉄骨などの構造物、軒下の窪みなどにつくる。1巣卵数は4～5個、雛は12～13日でふ化し、両親に養われて14～15日で巣立つ。

ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、イワミセキレイ等を総称して“せきれい”という。いずれも尾が長く、尾を上下によく振り動かすことから、平安時代には「にはたたき（庭たたき）」と呼ばれていた。室町時代には、漢名の鶺鴒を音読みにして“せきれい”と呼ぶようになり、ハクセキレイ等を区別して命名するようになったのは江戸時代になってからのことである。

取材協力：高木嘉雄氏

参考文献：『野鳥の図鑑（陸の鳥②）』 中村登流著 保育社 1986年

『原色日本野鳥生態図鑑（陸鳥編）』 中村登流・中村雅彦共著 保育社 1995年

『図説日本鳥名由来辞典』 柏書房 1993年